

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	リトルジェム植木		
○保護者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	2名	(回答者数) 2名
○従業者評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	3名	(回答者数) 3名
○訪問先施設評価実施期間	2026年 2月 9日		2026年 2月 27日
○訪問先施設評価有効回答数	(対象者数)	2	(回答者数) 1
○事業者向け自己評価表作成日	2026年 3月 15日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	三者連携(家庭・訪問先・事業所)	<ul style="list-style-type: none"> 訪問先施設へ計画原案を確認し、意向を反映 支援後に保護者へ面談・助言を実施 HUG等を活用した日常的な情報共有 訪問先評価でも「同じ方向を向いた支援」が強みと評価 	<ul style="list-style-type: none"> 三者カンファレンスの「定例化(短時間でもOK)」 共有内容のフォーマット化(支援ポイント・家庭対応・園対応) ICT(HUG等)の活用ルール統一で情報の質を均一化
2	個性性の高い支援計画	<ul style="list-style-type: none"> アセスメント(TASP等)を活用した客観的評価 保護者ニーズ+児発での様子を統合した計画作成 全職員での会議による共通理解 訪問先の状況を踏まえた具体的支援設定 	<ul style="list-style-type: none"> 支援効果の「見える化(数値・行動変化)」 成功事例の横展開(事業所内共有)
3	保護者への丁寧な説明と相談支援体制が整っている	<ul style="list-style-type: none"> 支援計画を提示しながら丁寧に説明し同意を得ている 支援後に面談時間を設け、家庭での悩みや困りごとを把握 定期的な相談対応を行い、助言を提供 保護者会の開催により情報提供と交流機会を確保 	<ul style="list-style-type: none"> 面談内容の記録・共有による支援の継続性強化 保護者の課題別(就学・行動面など)のミニ講座実施 オンライン相談や随時相談体制の強化

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	情報発信(SNS・広報)が不足している	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援に特化した発信体制が未整備 業務優先で広報まで手が回っていない 発信内容・ルールが明確でない 	<ul style="list-style-type: none"> 訪問支援専用の発信テンプレート作成 月1回など頻度を決めた情報発信 「保護者向け」「園向け」など対象別発信
2	訪問支援に関わる職員の関与範囲が限定的	<ul style="list-style-type: none"> 振り返りやPDCAが一部職員中心で行われている 訪問支援専任者と他職員との情報格差が生じやすい 組織全体でのノウハウ共有が十分ではない 	<ul style="list-style-type: none"> 全職員参加型のケース検討会の実施 訪問支援内容の共有資料(サマリー)の作成 ローテーション参加や同行機会の設定
3	訪問先とのカンファレンス時間の確保が難しい	<ul style="list-style-type: none"> 支援後に十分な時間が取れず、簡易的な情報共有に留まる 深い振り返り・次の支援検討まで至りにくい 	<ul style="list-style-type: none"> 事前に「短時間カンファレンス枠」を設定 書面やICT(HUG等)による補完的な共有 月1回など定期的な振り返り機会の設定